



会長 小林 幹夫 青少年奉仕 橋本八右衛門  
副会長 道尻 誠助 幹事 正部家光彦  
クラブ奉仕 会 計 佐々木泰宏  
会長エレクト 紺野 広 会場監督 峯 正一  
職業奉仕 妻神 和憲 直前会長 小井田和哉  
社会奉仕 地代所久恭 副幹事 松本 剛典  
国際奉仕 中村 稔彦 会計補佐 山村 和芳

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル  
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内  
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661  
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp  
http://hachinohe-rotary.org/  
会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 荒谷 達也  
同委員 廣田 茂 同委員 道尻 誠助

国際ロータリーのテーマ — 2022~23 — 八戸ロータリークラブのテーマ

イマジン ロータリー

ロータリーの力を信じよう!

国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ

八戸ロータリークラブ会長 小林 幹夫

## 2月 は 平和と紛争予防 / 紛争解決月間です

### 第3258回例会 2023.2.1

▶ ゲスト (株)ヴァンラーレ八戸  
代表取締役社長 下平賢吾さん  
ゼネラルマネージャー 熊谷浩二さん



○ロータリーレートのお知らせ  
2月1日より、1ドル=130円  
○2月5日の小中学生カルタ  
大会は、9:30開会式、13:00  
閉会式です。朝8:30~広瀬  
さんから南部会館を開けてい

ただいて、ふすまを取り外したり、会場設  
置がありますので、ぜひお力を貸していただき  
たいと思っています。

閉会式の後に今度は後片付けもあります。  
カルタ大会をご覧いただければと思いますが、  
途中抜けられても構いませんので後片付けに  
ご協力ください。

### 会長要件 小林 幹夫 会長



本日はヴァンラーレ八戸の  
下平社長をお招きして、「地  
域に必要とされ、役に立ち、  
愛されるクラブへ」と題して  
卓話をいただく予定です。

2018年11月にJ3のライセンスを取得して4  
年、社会人リーグから考えますと12~13年  
くらいだと思いますが、わたしの認識では  
すでに地域に根差しているクラブチームと  
いう認識ですが、さらにいろんなお話が聞  
けるとっておりたいへん楽しみにしてい  
ます。

### 幹事報告 正部家光彦 幹事

○ロータリー日本財団より、2022年7月1日  
~12月末までに寄付された方に、「確定申告  
用寄附金領収証」が届いております。

### 委員会報告

親睦・会場委員会 増田 敏委員



○ニコニコボックスの報告

・誕生日 山田慶次

村館珠樹さん

・結婚記念日 赤澤栄治さん

ヴァンラーレ八戸の下平社長、

本日はよろしくお願ひします。

小林幹夫・広瀬知明・夏川戸 斉さん

山村和芳・小井田和哉 } ニコニコデー  
築館智大さん

## 1月28日開催「地区危機管理委員会」出席報告

夏堀礼二さん



地区ライジェムという青少年プログラムをロータリークラブが運営するにあたり、さまざまなトラブルが起きた際

に対処するための危機管理委員会が各地区に設置されているわけです。青少年プログラムを各クラブが交換留学生、ローターアクト、インターアクトでいろいろ活動していく際に起きてしまうであろう何らかの偶発的、もしくは誰かの故意によるものかもしれない危機に対応すべく、危機管理をするための委員会です。

千葉の地区から都留さんが講師で来られました。彼はその地区の危機管理の委員長をさ

れていて、今まで長年にわたる実際の委員会開催事例を基にされているので、今回講師としていらしていただきました。

2830地区で危機管理委員会は設置されているものの、実はまだ具体的なプログラム、マニュアルそのものがまだ策定されていません。急いで策定しましょうということで、田中ガバナーは必要性を感じているものの、築館ガバナーエレクトにお願いしたいということで、築館年度でマニュアルの策定になると思います。実際には地区担当の六ヶ所ロータリークラブの岡山さんが中心になるらしいです。

偶発的な事故はいつ起こるかわかりません。そういったときにすぐに対応できるようにクラブの中でもある程度準備をしておく必要はあるのかと思います。

今後、執行部の理事役員の方々にはいろいろとご面倒をおかけすることになるかと思いますがよろしくお願いします。



## 「地域に必要とされ、役に立ち、愛されるクラブへ」

下平賢吾さん



・会社の概要：株式会社ヴァンラーレ八戸で運営していて、クラブ設立2006年です。2013年に株式会社になっています。

・事業内容：サッカークラブの運営。ホームスタジアムのプライフーズスタジアムの指定管理業務。フットサル場の運営、南郷田代地区にある太平洋金属の土地を借りてパムコフィールドという人工芝のグラウンドを新設運営しています。階上岳の麓で蕎麦やジェラートを販売しているフォレストピア階上を階上町から指定管理をいただいて運営しています。代表はわたしと細越と一緒に立ち上げ、ここまでクラブ運営をしてきたので、二人が代表になっています。16市町村をホームタウンにしています。2014年にJFLに昇格して、2018年にJ3昇格を果たし、今期で5シーズン目を迎えるところです。

・地域にどれだけ貢献しているかのバロメータは観客動員数に現れます。2018年は2,208

名でした。この年はどうしても昇格しなければならない、一試合平均2,000人の昇格条件がありました。それをクリアするために、言葉が悪いかもかもしれませんが、わたしたちは招待券をいっぱいバラまきました。何とか皆さんのご協力があって2,000人を超えることができ、昇格を果たしています。

2019年に1,760名と一試合平均をちょっと減らしていますが、招待券をただただ撒くということではなく、興行として成り立たせていかなければならないということで、有料の入場者を増やそうというところで少し締め、この年はチケット収入が一番上がった年でもありました。さあ、これからというところで、2020年コロナ禍に突入してしまい、666名にまで減りました。2021年1,237名にまで戻し、昨年は皆様のお陰様で1,503名まで戻すことができます。今期は目標ではなく、2,000人を必ず達成するというところで、皆様のご協力をいただきたいと思います。

昨シーズンは最多動員数になりますが、松本山雅さんという長野県のチームとナイターゲームをやったときに3,000人を超えることができました。まだ一方でコロナで中止になり平日の試合になってしまったゲームが500人を割ってしまうということも現状としてありました。

• **順位と試合数について**：昨シーズンは14勝1分19敗、10位でシーズンを終えることができました。これがわたしたちにとって満足できる順位かという、J2の昇格条件は2位以内ですので、まだまだかなりの階段があるなというふうに思っています。しかし、昨シーズンの序盤に少し低迷した時期がありましたが、シーズン終盤にかけて尻上がりに調子を上げて昨シーズンを終えたというのは、今シーズンの最初からスタートできるように、今、福島にキャンプに行っ、二次キャンプは茨城でやって、3月の開幕に向かっていくという準備をしているところです。

• **試合数**：今年は20チームになりますので、ホームゲーム19試合ほどあります。1試合平均2,000人を目指して頑張っていきたいと思っています。

• **現状と来期(今期)の予算**：年間予算は3.6億円でクラブ運営をしています。強化費8,000万円。今シーズン2023年シーズンはどのあたりの金額でやるのかという、年間予算4.6億円で強化費1.3~1.5億円くらいで運営していきたいと思っています。

このところなぜこの数字なのかということですが、他クラブとの比較では、このチームはここ3年でJ2に昇格した東北のチームです。秋田 年間予算4.6億円で昇格。グルージャ岩手は5.8億円、昨シーズン昇格したいわきFCは5.2億円。わたしたちが今シーズン設定している4.6億円は秋田が一番少ない予算でJ2に昇格したチームということで、これを下回って昇格を果たしたチームがないということから、このところまで引き上げていかなければならないと思っているのが今の現状です。

• **他クラブとの比較**：順位、事業収入強化費、広告料収入にすべて順位がつけられています。

事業収入のほしい10位になっているチームがほしい10位にスライドしていると思います。わたしたちは低予算で頑張っています。事業収入、強化費を上げていかなければならないというのが今の現状です。

• **クラブが見据える目標**：中長期計画ですが、3シーズン以内に事業収入を5億円までもっていきたいと思っています。4.6億円の壁を今シーズン中に何とか達成して、2024年2025年で達成していきたいと思っています。このところ、わたしたちだけではなかなか達成することができませんので、多くの皆様からの支援をいただければと思っています。

• **現状・来期以降のリスク**：今までJリーグはどんどん上がってきてくださいという形でしたが、J1が18チーム、J2が22チーム、J3が20チームを定数とすることが発表されました。ということは、わたしたちが一生懸命頑張って東北社会人のときから頑張ってJFLに上がって、そこからJ3に上がりましたが、JFLとの入れ替えが始まることになります。結果次第ではアマチュアリーグに落ちてしまうことも考えられるということがリスクです。降格すると地域全体に与える影響がすごく大きなものになると思っていますので、わたしたちは下を見るのではなく、J2昇格を見てやっていきたいと思っています。

Jリーガーを目指すこともたちにとって、すごく大きな影響になると思っています。私たちは今600名ほどのアカデミー生子どもたちを抱えています、その目標となるトップチームを維持していく、ステップアップしていくことを考えると、この入れ替え戦、J2昇格を目指していかなければならないと思っています。

• **2023年シーズン**：事業収入を大きくアップしていきたい。なぜなら選手の強化も含めて、我々のクラブの理念でもある地域の貢献活動にももっともっと力を入れていきたいと思っています。そして地域全体での一体化を生み出していきたいと思っています。それが選手のパフォーマンスにも絶対にいい影響を出すということは、3,000人入った試合になるとやはり選手の動きはまったく変わってきています

ので、ぜひ2,000人、3,000人というものを入れるような、地域全体での一体化を作り出していきたいと思っています。

・**サポーターの数**：今までわたしたちが歩んできたところです。2009年は1人で応援していた方がいた中で、2013年、2015年といっばい増えて、昇格した2018年には4,000人を超える後押しがあって昇格を果たしています。地域全体での一体化を生み出していきたいと思っています。

今シーズンは地域一体で昇格に向けて力強い一歩を踏み出したいと思っています。JFLからJ3に昇格するときの雰囲気をもう一度わたしたちはファン、サポーター、パートナーの皆さんと作り上げていかなければならないと思っています。また一番信頼関係を築いていかなければならないというのは、クラブの現状と未来を共有できるスポンサー、パートナー様の存在が一番大きいと思っていますので、皆さまのご協力、ご支援をいただければと思っています。

・**地域にもたらすもの**：2015年にわたしたちがJFLに在籍したときに、わたしたちがJ3に昇格したらどれだけの経済効果があるかを試算してもらいました。そのときは5.3億円ほどだったのですが、2019年に昇格したシーズンの経済効果を八戸地域社会研究会の方に依頼したところ10.5億円の経済効果があったであろうといわれています。本当にこれがJ3からJ2になるともっともっと、八戸市、県南地方のために経済効果を生み出せるのではないかとと思っています。

鹿兒島ユナイテッドがJ3からJ2に昇格を決めたときの経済効果は88億円あった。J3でいうと、アウェイから来るサポーターの数は100人を切りますが、J2になるとアウェイから来るサポーターは400~500人、J1になると1,000人以上2,000人となります。ぜひこの辺もわたしたち、皆さんの力で経済効果を生み出していけるように頑張っていければと思っています。

・**ホームタウン活動について**：われわれはクラブ設立からこの部分に力を入れてやってき

ました。巡回指導はスクール生600人ほどいます。平日の午前午後、3か所、4か所、保育園や小学校にサッカー指導で出張指導しています。またヴァンラーレタイムといって、小学校、中学校の授業にお邪魔させていただいて、1時間の前半の30分を選手やスタッフが夢を語って、残りの30分は一緒に体を動かしてやる活動をやってきました。また、サッカー教室、サッカー大会なども年間ホームゲームの前座でほぼ毎回のようになっています。わたしたちのホームゲームではイベントの発表会、保育園の遊戯を試合前にやるなど、本当に地域に必要とされることを考えてのイベントをいっばい組んでいます。自治体や企業のイベントにも多く参加しています。ナイターが会場に付きましたの、ナイターの試合を活用しながらのイベントをやっています。

地域のコラボ商品をいっばい出しています。リンゴジュースは八戸中央青果とのコラボ商品です。これを飲むとわたしたちに強化費が入ってきますので、飲めば飲むほどチームが強くなるということです。ぜひ購入して飲んでいただければと思います。缶詰はプライフーズとコラボしている商品で、食べれば食べるほどチームが強くなります。

わたしたちでは農業をやっています。南郷でにんにくをやっていて、収穫したにんにくを上北農産加工と一緒に“源たれ”を“ヴァンたれ”ともじってやっています。これは年間すごい本数の売り上げがあります。わたしたちが収穫したにんにくを使って商品化しています。

・**クラブ理念**：地域に愛されること、地域に役に立つこと、地域から必要とされること。わたしたちがクラブを設立して、この理念をずっと掲げて今までやってきました。これからもこの理念を、必ず遂行しながらJ2昇格に向けて頑張っていきたいと思っています。この理念に賛同していただいて、共有していただけるパートナーの皆様と共に力強い一歩を今年踏み出したいと思っています。詳しい資料はわたしか熊谷までご連絡いただければと思います。